

音楽科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

○思考力・判断力・表現力

曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な改善策	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	○思考力・判断力・表現力 聴いた音楽に対してどのような雰囲気を感じ取ったかは表現できるが、その思いに至った理由として要素や要素同士の関連を知覚・感受できない。	・ワークシートや拡大楽譜、ICT 機器を活用した音の視覚化を図る。 ・4人グループにおける言語活動を取り入れた鑑賞活動を実施する。	・鑑賞单元ごと	・視覚化することにより、要素や要素同士の関連を知覚し、楽譜に書き込むことができた。 ・鑑賞活動では4人グループで根拠をもって意見を話し合うことができた。
第2学年	○思考力・判断力・表現力 楽曲の創意工夫に対して思いや意図をもたず、考えずに表現してしまう。	・ワークシートや拡大楽譜、ICT 機器を活用した音の視覚化を図る。	・実技单元ごと	・視覚化することにより、要素や要素同士の関連を知覚し、楽譜に書き込むことができた。さらに言語化できるようになることが課題である。
第3学年	○思考力・判断力・表現力 楽曲の創意工夫に対して思いや意図をもつことはできるが、その思いや意図が音や音楽として表現されない。	・ワークシートや拡大楽譜、ICT 機器を活用した音の視覚化を図る。 ・パート練習においてリーダーが指示を出せるように指導する。	・実技单元ごと	・視覚化することにより、要素や要素同士の関連を知覚できた。 ・パートリーダーにあらかじめ表現したい注意事項を考えさせることが有効である。

■主体的・対話的で深い学びに関連して

- 1年 他者と考えを共有し、それを実際の曲想に即して時間する。
- 2年 実技の表現を他者と互いに聴き合う。
- 3年 実技の表現を他者と互いに聴き合う。

■小中一貫教育共通プログラムに関連して

- 1年 発問の仕方等を工夫し、全員が参加できるようにする
- 2年 発問の仕方等を工夫し、全員が参加できるようにする
- 3年 発問の仕方等を工夫し、全員が参加できるようにする